

西濃農林事務所の普及活動状況

平成25年1月29日現在

活力ある新産地づくり

■ブロッコリー 生育遅れ、出荷は減少

11月以降厳しい低温が続いた影響もあり、生育が遅れて花蕾の肥大も十分でなく、12月末までの出荷量は、7,534ケース(前年比47.4%)、販売額11,186千円(前年比54.6%)となった。花蕾の褪色や開花が懸念されるため、Mサイズでの収穫を指導している。

9月20日以降定植の品種「キャッスル」では、遅れながらも年末から収穫が始まったが、中晩生品種は肥大が進んでおらず、出荷は2月中旬以降になると見込まれる。

売れる農畜産物づくり

■大豆 大豆の収穫状況

J Aとの連携のもと、大豆の適期・適切な収穫について支援してきたが、断続的な降雨・降雪の影響もあって作業は遅れ気味となり、年明けまで未収穫のほ場が1~2%程度残り、管内の収穫作業終了は1月15日となった。

生育期間の好天により、生育・着莢状況は順調であったが、10月中旬以降の低温で成熟期が早まった影響からやや小粒傾向となり、集中豪雨や降雪により倒伏するほ場が目立ち、品質は2等中心で、収量は平年並みとなる見込みである。

■小麦 低温による生育の遅れ

10月に播種したイワイノダイチでは、ほぼ莖数の確保ができたが、11月以降の低温推移により全体に生育は遅れ気味で、11月播種ほ場はほぼ出芽したが、12月播種では、未だ出芽揃いを迎えていないほ場が散見され、草丈、莖数、葉齢いずれも前年を下回っている。

今後は、2月下旬から3月中旬の適期・適切な穂肥の施用、定期的な明きよの点検補修による排水対策の徹底等により、高品質小麦の安定生産を支援していく。

■トマト 厳寒期の栽培支援

1月上旬までの累計実績(3ヶ年対比)は、数量92%、金額116%、単価126%となっている。年明け以降は好天に恵まれる日が続き、全国的に日照時間がますます確保され、促成作型が出揃いに向かっており、微増傾向の出荷推移となっている。

厳寒期に入ってきたため、温度及び日射量確保等の栽培環境管理とともに、灰色かび病等の病害虫防除対策について支援を継続していく。

■きゅうり 巡回検討会の開催

12月下旬までの販売実績(対前年比)は、数量103%、金額87%、単価84%となっている。半促成栽培(12月定植)の生育は概ね順調であり、1月7日から出荷が始まっている。

1月9日に、海津胡瓜部会巡回検討会が開催され、関係機関、生産者が3班に分かれ、全戸ほ場の巡回調査を行ったうえで、それぞれ生育状況や病害虫の発生状況等について報告し、その対策について検討した。また、農業普及課からは、きゅうり黄化えそ病に関わる調査結果と対策についても説明した。

■いちご 生育遅れが続く

頂果房の収穫終了は1月上~下旬となり、出荷ピークが1月にずれ込んだ。腋果房はバラツキがあるが、2月上旬より出荷量が増えてくる見込みである。濃姫、美濃娘では、1月中旬頃より3番果房の出蕾が見られ始めている。

厳しい寒さにより、暖房機等の装備のないハウスでは草勢が低下してきており、摘蕾の実施や適切な温度管理や電照時間等を指導している。また、ハダニ類の増加したハウスが一部であり、定期的な防除の実施を指導している。

■甘長ピーマン 輪之内支部研修会を開催

1月7日に、海津甘長部会輪之内支部の研修会が開催され、25年産の生産協定および土壌診断の実施等について説明を行った。また、平成25年産からは新たに2名の生産者が作付けすることとなり、定植に向けた注意点についての指導を行った。

■なし 次年度なし生産に向けて

休眠期を迎え、整枝・剪定作業が行われており、電動結束機等を導入し省力化を図る農家が増えてきている。

毎月実施している大垣市の2組織の勉強会において、農業普及課から、農薬安全使用、土壌診断実施に基づく適正施肥の重要性について説明を行った。

■栗 低樹高栽培の導入支援

養老山麓では、栗の巨木園が多く、剪定、農薬散布等の作業が困難で危険も伴う。農業普及課では、低樹高栽培の導入を勧めており、海津市南濃町の希望農家に対し、低樹高栽培のための剪定を指導している。

今後は、養老町果樹振興会員の希望者数名に対しても、低樹高栽培の導入について支援することとしている。



【低樹高栽培に向け剪定】

■フランネルフラワー 鉢替え作業ほぼ終了

製品鉢への鉢替えは、11月から12月にほぼ終了し、残る品種「エンジェルスター」も、1月には終了する見込み。生育は順調だが、12月から湿害等による株枯れが散見された。

切り花については、12月以降の出荷は無いが、株枯れもなく、生育は順調である。

フランネルフラワーについては、随時、作業管理、病虫害発生状況等を確認し、指導しているが、2月上旬には農業技術センター職員、農業革新支援専門員とともに管内の生産ほ場を巡回し、生育状況等を確認する予定である。



【鉢替えの様子】

多様な担い手の育成・確保

■指導農業士 神戸町健康やさい村視察

1月17日に、岐阜市において東海ブロック農業士研究会が開催され、神戸町の北村指導農業士が、健康やさい村の取り組みについて事例発表を行った。

翌1月18日には、現地視察が行われ、農業普及課からは、配布資料の作成等について支援した。



【健康やさい村視察の様子】

魅力ある農村づくり

■鳥獣害対策 猪鹿無猿柵設置支援と活動事例報告

1月19日に、海津市南濃町の志津地区住民による1,230mの猪鹿無猿柵の設置作業があり、農業普及課からは柵設置作業について技術指導支援を行った。地元参加者の中には女性5名のほか、直管パイプや針金の切断・結束などその道のプロが多数参加されたため、作業はスムーズに進んだ。

また、1月25日の西濃農業の活性化をめざすセミナーでは、普及活動事例として、管内の鳥獣害対策の実態と取り組み状況を報告し、県農村振興課による猪鹿無猿柵等の展示が行われた。



【柵材料の準備作業】